

【山崎主宰の俳句】

狼ろう
煙えん

山崎 聰

椋むくの木に椋鳥とつぷりと昭和の灯

新横浜駅北口不意に秋の声

芋虫のもあもあといる昼餉どき

見て聞いて揺らぎてわれら天高し

言の葉のひとりあそびの黒葡萄

蓑虫のきのうをいまだひきずりて

愛されて十一月の旅靴

身体髪膚もとより熱く一の酉

狼煙は岬の果たて濁り酒

新雪の山脈見ゆる朴葉鮓